

週刊 タバコの正体

現在、建物や屋内における受動喫煙をなくす対策は全国の様々なところで進んでいます。だから、大型施設や公共の場所では、タバコのニオイを感じる事がほとんどなくなっています。ところが案外、道路や公園などの屋外でタバコの煙やニオイを感じる事がよくあります。

そう言えば、指にタバコを挟んだままの“歩きタバコ”や、信号待ちでの喫煙はよく見るシーンです。さらには、車内の窓から火の付いたタバコを持った手を出して運転している人もよく見かけます。屋外におけるタバコの煙はすぐに遠くまで流れてしまうので、消えてしまう印象がありますが、その分、広い範囲にタバコのニオイをもたらし、そのあたり一帯をタバコくさくしてしまいます。

じつは、人が多い都会ではそんな状況を改善するため、条例で路上喫煙禁止区域を設定しているところがたくさんあり、たとえば下図にある東京都千代田区は、なんと区の全域が“路上喫煙禁止”なのです。その面積は約9km²で、和歌山県の太地町(約6km²)よりも広いのです。

「町全体の路上が禁煙」という場所が存在する時代になってきています。

産業デザイン科 奥田 恭久



千代田区「生活環境条例」サイトから